

2009年(平成21)7月

# カルメル 靈性センターニュース



16 luglio - *Madonna del Carmine*

スカブラリオを受ける聖テレジアと十字架の聖ヨハネ

245号

# DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——

## 第一卷

### 第13章 誘惑に抵抗する

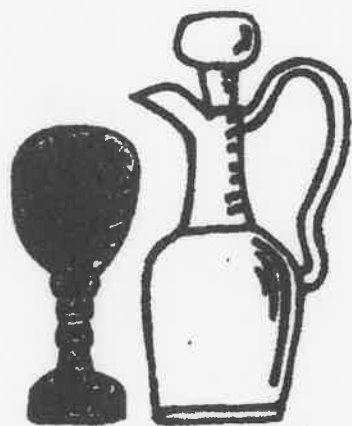
#### 3 忍耐と謙遜

生きているかぎり、完全に誘惑をまぬがれることはありえない。私たちは罪のなかに生まれ、そのみなもとを内にもっているからである。一つの誘惑、あるいは試練が過ぎ去ると、ほかのもう一つが来る。私たちは、いつも何かに苦しめられなければならない。私たちは、もとの幸福を失ったからである。多くの人、誘惑からのがれようとするが、かえって深く陥ってしまう。逃げるだけで勝てるとはかぎらない。勇敢に耐え忍び、心からへりくだることによって、つねに敵よりも強者の位置に立つことができる。

#### 4 神により頼む

根もとを引き抜かずに、表面的にだけよくなろうとする人は、徳に進歩することが少なく、すぐまたもっと強い誘惑を受け、しかも前よりもそれを激しく感じるであろう。自分の力だけに頼んでかたくなに闘うことなく、神の助けにより頼み、不断の忍耐を根気とをもって、徐々におこなうならば、もっと容易に誘惑に打ち勝てるであろう。誘惑にあった時には、しばしばよい人の意見を求めなさい。そして、誘惑されている人にいらだつことなく、むしろあなた自身がしてもらいたいような慰めを与えなさい。

心の泉





## 聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 7 -



カルメル山の聖母  
ベルナデッタ と 聖エリア

一見したところ

あるいは本当に

希望がないとき、

それはマリアの「時」です。

マリアはまったき母であり、

母以外の何者でもないからです。

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd—

これはあまり見かけないカルメル山の聖母のイコンです。右下にカルメル山の洞窟で祈るエリヤ、左下にルルドのベルナデッタ・・・この興味深い組み合わせは、わたしたちの関心を引きまします。

7月16日はカルメル山の聖母の祝日、そして20日は預言者エリヤの祝日です。エリヤが活躍したのは、バアルの神を人々が拝む罰として真の神がいのちの源である雨を絶たれていた時でした。イスラエルの民が「主が神である」と宣言した後、エリヤはカルメル山の頂で祈り、「人の手ほどの小さな雲」が海から立ち上がるのを見とどけました。この雨雲にエリヤは子をはらんだ処女を眺めたと初代修道者に関する資料にあります。エリヤの預言者的信仰のまなざしはそこに「いのち」そのものであるキリスト、恵みの雨の前兆を読んだのです。後日「人々にいのちを与える」あがない主は「いのちの水」に渴いている人々の心を潤すこととなります。

1858年2月11日に「美しい貴婦人」はルルドの洞窟にはじめてお現れになりました。貧しい少女ベルナデッタにその後18回ご出現されたその最後は、カルメル山の聖母の祝日でした。その日聖母は手を組み合わせて祈っておられ、何も語られずに去られました。今までよりさらに美しかったと言うベルナデッタはこの最後の「沈黙の聖母」を心に刻み、心身の苦しみを最後まで生きぬきました。聖母がベルナデッタの信仰によって湧きださせた泉の水は人々を癒しても、ベルナデッタを癒すことはありませんでした。「この世ではなく、次の世であなたを幸せにする」と約束された無原罪の聖母・・・わたしたちの日常生活で「一見したところあるいは本当に希望がないとき」、その時こそ「マリアの時」であることを思い起こし、わたしたちの信仰のまなざしを母マリアに注ぎ続けたいものです。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

## 『必要なことは、ただ一つだけ』(48)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

触れることはいやしとなるという考えは、古いものです。言葉は接触を意味するアラビア語に由来しますが、マッサージに関する最初の記録は、2500年前の中国にさかのぼります。紀元前2200年頃のアネク・マ・ホルというエジプトの祭司の墓のレリーフには、椅子に坐り、足のマッサージを受けている一と歴史家は解釈しています一人の人が描かれています。近代医学の父とされているギリシャの医師ヒポクラテスは、紀元前4世紀におけるマッサージ普及の促進者でした。彼は、「医者とは、たかさんのことに、とりわけ(医学的なマッサージ術としての)アナトリプシスに通じていなくてはならない」と言っています。近代科学は、私たちがすでに知っていたことを、すなわち、精神医学者のジェームス・ゴードンが言うように、「マッサージは医学である」ことを確認しているにすぎません。

私たちは、皮膚が人間の身体の中で、幾百万の受容器官一つの指先だけで約8000ある一を含む最大の器官であることを知っています。この器官は、神経線維を通して脊髄へ、そして脳へさまざまな情報を伝達します。ちょっとした接触、例えば、肩に手を置いたり、腰に腕をまわしたりすることは、心拍数を減らし、血圧を下げるのです。深い昏睡状態にいる人々でさえ、彼らの手が握られると、心拍数が変わることがあります。肯定的な育むような接触は、身体の自然的苦痛を抑える物質の放出を促進するように見えます。

人間のあらゆる接触には、無限なるものへと手を伸ばし、超越しようとする欲求があります。この傾向は、無神論者の中にも不可知論者の中にも、無知な者にも賢い者にもあります。この接触は、神的なものへの人間の絶えざる渴望なのです。あらゆる接触には、自分から出ること、自分を与えることが存在します。これが、人間の接触に無限の価値を与えているのです。この傾きを否定し、人間の生活を有限のこの世の現実に限定しようとするあらゆる企ては、自然に対する反逆です。接触の感覚は、すべての綿密な公式化から脱け出して、究極的には神へと手を伸ばすのです。

神は人間を、ご自分の手で地のちりから創りました(創2:7)。人から石の心を取り除き、肉の心を入れました。最後に、ご自分の霊を彼の中に吹き込まれました(エゼ36:26-27)。このことは、神は創造している間、私たちに触れ、ご自分の手で私たちに形作ったということです。神は、手のひらに私たちの名を彫る労をい

といませんでした（イザ 49：16）。これは、神が直接的に私たちに触れたということです。神は、絶えず私たちと接触しているのです。名を彫るには、忍耐と個人的な関心が必要とされます。何かに個人的に執着せずには、彫ることはできないからです。私たちが壁や石に名前を彫るのは、私たちに思い出してほしいと人々に告げているのです。神はそれを、ご自分の手のひらに行なったのです。イスラエルの人々は、神の前に出るために自らを清めねばなりませんでしたが、けれども彼らは、神の栄光が下った山に触れることさえ許されませんでした（出 19：12 参照）。契約の箱は、選ばれた人々だけによって運ばれました。それに触れた者は皆、死にました。それゆえ、私たちは神に触れることはできないのですが、神は私たちに触れることができるのです。

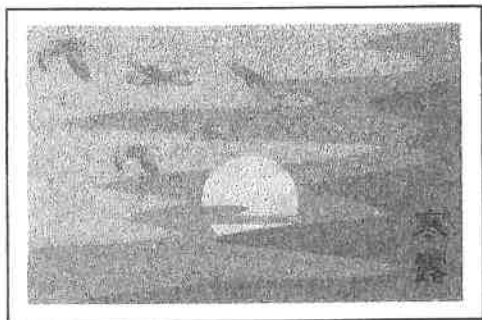
触れることに関わる多くの聖なる意味があり、それらはまた祈りに関連しています。たとえば、手を置くこととも呼ばれる按手は、司祭か他の聖職者が他の人の頭の上に片手か両手を置く儀式で、通常、祈りか祝福を唱えながら行われます。按手は、初めユダヤ教で行なわれていましたが、キリスト教に引き継がれました。ヘブライ語の聖書では、それは、三つの相互に関係する概念と結びついています。第一は聖別（神の奉仕のために取り分けること）、第二は神の賜物の伝達、第三は同一化（司祭が犠牲と結ばれる手段）です。

新約聖書には、同じ伝統が見られます。しかし、これらすべての伝統は、叙階と洗礼に結びつけられていて、そのどちらにおいても、按手は儀式の中で本質的な部分となっています。叙階は、聖別と賜物の伝達の二つを含み、同一化のテーマはその中に内包されています。それは、叙階される者は権威に与り、叙階する者の代理者であることを意味します。洗礼に関連する按手は、改宗者であることが確認され、共同体に組み入れられる手段となっています。さらに、それは、その人を神の奉仕に取り分けることであり、聖霊の賜物にもつながっています。新約はまた、按手が祝福を伝え、癒し的手段となることを告げています。

初代教会は、これらの慣習をそのまま踏襲し、さらに二つのことを付け加えました。一つは、カテクメン（すなわち、洗礼を準備している人々）を祝福するために、もう一つは、悔悛者や異端者を和解させるために、按手しました。教会は、とりわけ叙階や堅信の儀式において、接触のこの典礼的行為の慣習を保持しました。

病気の女は、「この方の服にでも触れればいやしていただける」（マコ 5：28）と呟きました。まず彼女の中には成熟した信仰があります。身体的接触は、効果的な接触を生みます。身体的接触は、彼女の信仰や内的気質を通して、ますます効果的なものとなるのです。（九里 彰訳）

# ヘンリ・ナーウェンの 旅路の糧 (123)



## 死ぬことを許すこと

私たちが家族や友達に与えることのできる最大の贈り物の一つは、彼らがよく死ぬよう助けることです。時折、彼らの方は神のもとへ行く準備ができていますが、私たちの方が彼らを行かせることに苦しむ時があります。けれども、次のような瞬間があるのです。その時、私たちは愛している人々に「彼らは神から来たのですから、神のもとへもどる許しを与えなければならぬのです。私たちは彼らと共に静かに坐り、こう言わなくてはなりません。「恐れなくていい。私はあなたを愛している、神はあなたを愛している… 今や安らかに行く時なのです。私はもうあなたにすがりつかない… あなたを自由に神のもとに帰らせます… おだやかに、私の愛と共に行ってください」。心からこう言うことは、ほんとうの贈り物です。それは愛が与えることのできる最大の贈り物なのです。

イエスは死ぬ時、こう言いました。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」(ルカ 23:46)。しばしば死にゆく友と共に、この言葉を繰り返すことはよいことです。この言葉が彼らの唇に、あるいは彼らの心の中にのぼるとき、彼らはイエスがそうしたように、神のもとへ移行することができるのです。

(1205)

## 死すべき運命に向かい合うこと

私たちは皆、完全な生涯、すなわち苦しみや悲しみや葛藤や戦争なしの生涯を夢見しています。霊的な挑戦とは、まさに多くの苦労のただ中で、この完全な生涯を垣間見る体験をすることです。この死すべき命の現実を抱きしめることによって、私たちはその中にまかされている永遠の命に触れることができるのです。使徒パウロは、次のように書くことによつて、このことを力強く表現しています。「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。わたしたちは、いつもイエスの死を体にまもっています、…死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために」(2コリ 4:8-12)。

私たちが死すべき運命に向かい合うことによつてのみ、私たちは死を越える命に接触することができるのです。私たちの不完全さが、神がイエスの内に、イエスを通して約束されたまいったき命のヴィジョンを私たちに開いてくれるのです。

(0226)

九里 彰訳



「人々はイエスにつまずいた」(マルコ 6, 3)。

「イエスはそこを去って故郷にお帰りになったが、弟子たちも従った」。「マルコによる福音」では、この言葉の直前には、ガリラヤ湖での突風を鎮め弟子たちを死への恐怖から、また、ゲラサでは墓場を生活の場にしていた人を悪霊から解放し、十二年間も出血症に苦しめられていた婦人を癒し、ヤイロの娘を生き返らされたと、「死」にまつわる限界状況の中で無力さに打ちのめされている人々へのイエスの憐れみからの権能の発揮が報告されています。彼らは、この絶望の底から、必死に、また謙虚に、懇願しています。この懇願に慈しみ深いイエスは奇跡を持って答えるのです。この人々の態度が、「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心してゆきなさい」とのイエスのお言葉での「信仰」なのです。イエスに奇跡を要求する権利があるほどに強い信仰と言うのではなく、自分の能力、権利、資格すべてに絶望して、ただイエスのみに自分を任せる信仰なのです。

このイエスのうわさを、イエスの故郷、小さな部落ナザレの人々も、聞いていたことでしょう。そこに、イエスは弟子たちを従えてお帰りなります。ある安息日にイエスは会堂で教え始められます。人々は、その教えの知恵深さに驚き、イエスについては、その生い立ち、学歴、親族、職業、すべてを自分たちは熟知していると思っていたからこそ、その驚きは、疑問に変わります。「この人は、このようなことをどこから得たのだろう」。「この人は、大工ではないか」。ここで言われる大工とは、専門的職業訓練を受け、特殊技能を身につけた職人と言うよりは、部落の「なんでも屋」、「便利屋」、人々が自分たちの必要に応じて雑多な仕事を頼み、手間賃を支払う、そんな職業です。「マリアの息子で、兄弟たち、姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか」。ナザレの人々にとって、イエスは、その前に身を屈し、自分たちの無力さを告白し、「助けてください」と懇願する相手では、さらさらにありません。「人々はイエスにつまずいた」。イエスの言葉のすばらしさを素直に権威あるもの、自分たちを生活の見直しに招くものとは受け取れないのです。自分たちの方こそ、イエスを批評し、判断し裁く立場にいると思っていたのでしょ。ここに、十字架の死で頂点に達する「受肉の愚かさ」があります。「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強い」(1コリント 1, 25)。

ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 1 5 主 日 (B) (マルコ6:7-13)

「主は弟子たちに旅には杖一本のほかは何も持たず、・・と命じられた。」

今日読まれるマルコ福音書の中でイエスは12人の弟子を宣教に派遣します。聖マルコはその時の様子を伝えています。宣教とは何ですか。それはどの様に行われるべきものなのですか。その方法は一つですか、それともいろいろありますか。多くの大事な疑問が出てきます。それらは教会生活そのものにとって本質的な疑問です。

福音を宣教することはキリストの命令です。わたしたちは信仰における従順を通してこの命令を果たして行かなければなりません。教会の使命であるこの命令は神の国の完成のために不可欠です。キリストは、初めに神が創造された悪のかけりのない世界を実現するために、弟子たちを派遣します。彼らに“汚れた霊に対する権能を授け”ました。教会の使命はわたしたちの日々の祈りの中にもあります。“父よ、わたしたちを悪からお救いください”と祈り最終的な神の国の実現を願います。日を重ねるごとに神の国は広がり、人類最後の日のキリスト再臨の日の決定的な完成へと向かいます。

イエスに親しく結ばれて生きようとする者にとって、財産を持つことはいつの世においても一つの問題となっています。その上、原罪の結果、わたしたち人間の本性は傷つき、歪められ、その内に秘められた神のイメージは、初めに神が吹き込んでくださったものとはほど遠いものとなってしまいました。このような自分にわたしたちは抵抗し、反対の道を通り、全く別の生き方をしなければなりません。今日の福音でイエスが、弟子たちに何も持たずに旅に出るように命じられたのは、このためです。わたしたちがこの世の財産や快楽に心が惹かれれば惹かれるほど、わたしたちはこれらを手放し自由にならなければなりません。このような福音的な生き方は、偉大な聖人たちによって精神的富を教会にもたらしました。アッシジの聖フランシスコもその一人です。聖人を見倣いましょう。この世の財産に心を奪われないために、天国の真の幸福に、わたしたちの心を引きつけてくださるよう神に願い、祈りましょう。

イエスは日々わたしたちを福音宣教に派遣します。信仰、希望、愛をもってイエスに従いましょう。またマリアに願いましょう。マリアは、神から託された使命を聖霊によって、この地上で完全に果たされました。主が生涯を通してわたしたちに期待なさることを適確に理解するために、マリアがわたしたちを照らし、助けてくださいますように！ミサの聖体拝領のときにいただく主の御体が、永遠のいのちに至る道の力と導きの光になりますように！

(Sr. Paulina)

「あなたがただけで人里離れたところへ行って、しばらく休むが良い」  
(マコ 6, 31)。

なぜ、イエスは、しばらく休むがよいと言われたのでしょうか。宣教の労をねぎらうためだったのでしょうか。確かに、イエスは、わたしたちが、労苦で疲れ果てている時に、あるいは、失敗、挫折、徒労で落ち込んでいるときにも、休みなさいと声をかけてくださいます。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ 11, 28)。しかし、また逆に、なにかがうまくいっている時、うまく行きすぎている時も、仕事を離れて休まなくてならないのだと、イエスは言われているのではないのでしょうか。成功を自分の才能、能力、あるいは努力に帰してしまい、自分はなにほどかの者だと思いついてしまうことのないためです。「わたしどもは取るに足りない僕です」(ルカ 17, 7)、「わたしを離れてはあなたがたは何もできない」(ヨハネ 15, 5)。

この時期、社会は、夏休み、ヴァケーションの期間に入ります。わたしがラテン語の勉強を始めたころ、一つの単語に大変困惑したことを覚えています。その単語とは、まさに、このヴァケーションの語源にある単語ヴァカレでした。専念するとの意味と、暇であるとの二つの意味が辞書には載っており、何か矛盾しているものを感じたのです。しかし、よく見れば、辛い奴隷的労働や戦争、従軍から解放され、余暇を楽しむゆとりがある、勉学や自分の才能を伸ばすことに専念、没頭することができるほどに自由であることを意味しているのです。ヴァケーションの本来の意味は、心を奴隷化し、滅ぼさせるほどの忙殺、心を忘れさせるほどの煩雑さからは解き放たれて、心を豊かに養う糧を摂取することだったのです。レジャーで遊びほうけ、心も、頭も、お財布も空にすることとは、大変異なっているのです。私たちの原点、イエスとのつながりに専念、専心するとき、これがヴァケーションの原点ではないのでしょうか。これは、また、日曜日の原点でもあります。

「飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた」。良い羊飼いイエスの声に心の耳を傾ける時を持てますように。「神はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいの水辺に伴われる。神はわたしを生き返らせ、愛しみによって正しい道に導かれる」(詩篇 23, 3)。  
ルカ 渡辺幹夫

年間 第17主日 (B)

「どこからパンを買ってこの人たちに食べさせようか？」

(ヨハネ6：1～15)

イエスの生涯の物語において、本日の福音は先週の日曜日に解説したマルコの福音の一節に続きます。イエスの言葉を聞きたい、彼に会いたい、特にイエスが奇跡を行うのを見たい、と熱望している群衆にたいしてイエスはようやく教えを終わったばかりのところでした。「そして大群衆は、イエスが病人に行なわれたしるしを見たので、彼について行った。イエスは山に登って、弟子たちといっしょにそこに座られた」。この人達は長い間そこにいて、イエスは彼らに何か食べる物を与えないで去らせたくありませんでした。帰宅への道のりは大変困難なものだったからです。

イエスは彼の教えを一生懸命聞いた大勢の人達に真に食べる物を与えるつもりです。イエスの「みことば」という「天のパン」を与えた後、イエスはこの世のパンを与えようとします。フィリポはこのように先生に試され、彼と同様に他の全ての弟子たちも試されたのです。彼らは皆、何か食べる物を持っている人を群衆の中に探しました。確かに弟子たちは皆イエスが彼らに命じたこと、即ち群衆に自分たちで食べる物を与えるようにという命令を実行しているようにみえます。聖ヨハネはヨハネの福音の中でこのことを伝えていませんが、三つの共観福音書記者はイエスがこの命令を弟子たちにしたと述べることに同じ考えを示しています。「食べる物をあなたたちがやりなさい」(マルコ6：37、マタイ14：16、ルカ9：13)。確かに弟子たちは先生に従っています、彼らはまず神のみ国とその義を探しました！そして彼らは大麦のパン五つと魚二匹とを持っている人を見つけました。

弟子たちは先生に従いました：彼らはこの大群衆のため食べる物を見つけようとあらゆることをしました。しかし、ここでシモン・ペトロの兄弟であるアンドレは自分が先生に差し出さなければならないものは実際あまりに小さいということに気づきました。アンドレは救い主の命令に従いましたが、人間的見地からは彼らの問題に何の解決もありません。アンドレはがっかりしたようです、そして彼はイエスに「こんなに大勢の人では、それが何になりましょう」といいます。確かにアンドレは「あなたたちも命じられたことをすべて果たしたとき、『わたしたちは、取るに足りないしもべです。なすべき義務を果たしたにすぎません』と言いなさい」(ルカ17：10)との主のこの言葉を実行しました。そして、今主人が介在する時となります。全てが失われたように思われ、私たちが救いの希望をほとんど全て失ったとき、神は行動を起こし、全能の力をふるい、神を信じ、神の意志を果たそうと人間的に可能な限り全てのことをする人達を、神は決して、決して、お見捨てにはなりません。人間が出来るこのほんのちょっとしたことに加えて、神は恩寵を通して、私たちを救い、永遠の生命に導く、神ご自身のあがないという働きを実現してくださいます。

(Sr. Paulina)

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (27)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 十字架のヨハネの決定的な召命 (4)

このように言うと、「彼は、あまり長くかからないならばという条件で、そうすることを約束してくださいました」。聖人の言葉は、毅然としながらも、頑固ではない態度のゆえに、有名となっています。

ここで、十字架のヨハネに、ほとんど聖クララが聖フランシスコに言ったのと同じことを、イエスのテレジアが言ったことが分かります。彼は、単純にカルトゥージオ会の孤独での祈りと観想に呼ばれていたのではなく、カルメルの新しい家族での祈りと使徒職に呼ばれたのです。

時々、カルトゥージオ会は、聖テレジアが十字架の聖ヨハネを奪ったと言います。奪うというよりは、彼女の巧みさと洞察力によって、彼を「魅了した」のだと言えるでしょう。十字架のヨハネは、私たちが知っている最も偉大な観想者であり、すべての人が賛嘆する、言葉とペンによる霊の道におけるもっとも偉大な使徒でしょう。母テレジアの識別は何とすばらしかったことでしょう。この後、彼女はヴァヤドリッドで、十字架のヨハネがドゥルエロに修道院を創立するまで、彼の修練長となります。この修道院は、1568年11月28日に開かれました。

(続く)



## …ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 20. 福者 三位一体のエリザベット (1880-1906) — その7

エリザベット・カテーは、1880年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起ししやすい性質であったが、初聖体を受けてからは、非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また、中流階級であった彼女の家族は、パーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとらえられ、彼のことしか考えられなかった。21歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会後間もなく、エリザベットは病気になり、胃疾患（現在では、アジソン病であったと考えられている）のため5年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、靈的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したのものの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを”Laudem Gloriam(栄光の賛美)”であると言っていた。1906年11月9日に帰天。最後のことは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。



福者 三位一体のエリザベット

—— 祈り ——

私は、神の栄光のために働きたいと望んでいます。そのために、私は、全く神に満たされた者とならなければなりません。そのとき、私は全能になるでしょう。一つのまなざし、一つの望みも、拒むことのできない祈りとなり、すべてを勝ち得ることでしょう。それは、言ってみれば、私たちが神にお捧げしているのは、神ご自身だからです。 (手紙124)

おお、私の導きの星よ、信仰の澄んだ光が、あなたを見ることが出来るように私を照らしてくれます。感じるか感じないか、光のうちにいるか闇のうちにいるか、楽しんでいるかいないかは、重要なことではありません。ただあなたにだけ、まなざしを注いでいることができるようにしてください。私が、あなたの光からさまよい出てしまうことが決してないように。

おお、私の神よ、私たちが愛において偽りのない者、犠牲として捧げられた者としてくださるようお願いいたします。主との一致によって主の道を整えることが、私たちの使命です。主に触れることによって、私たちの靈魂は愛の炎のようになり、それは、教会であるキリストの体のすべての肢体に燃え広がっていくのです。

愛するアントワネット、聖パウロがその弟子たちのために捧げた祈りを、私はあなたのためにお捧げしています。聖パウロは、「イエスが、信仰によって彼らの心のうちに住まわれ、彼らを愛に根ざすものとしてくださるように」とお願いになりました。この考えは何と深く、何と神秘的なのでしょう……。おお、そうです、まったく愛である神が、あなたの不変の住まい、あなたの修室、世のただ中におけるあなたの隠れ家となりますように。神は、あなたの靈魂の深奥に、至聖所におられるかのように住んでおられることを、忘れないでください。そこで、神は、礼拝と言えるまでに愛されることを常にお望みになっておられるのです。 (手紙261)

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

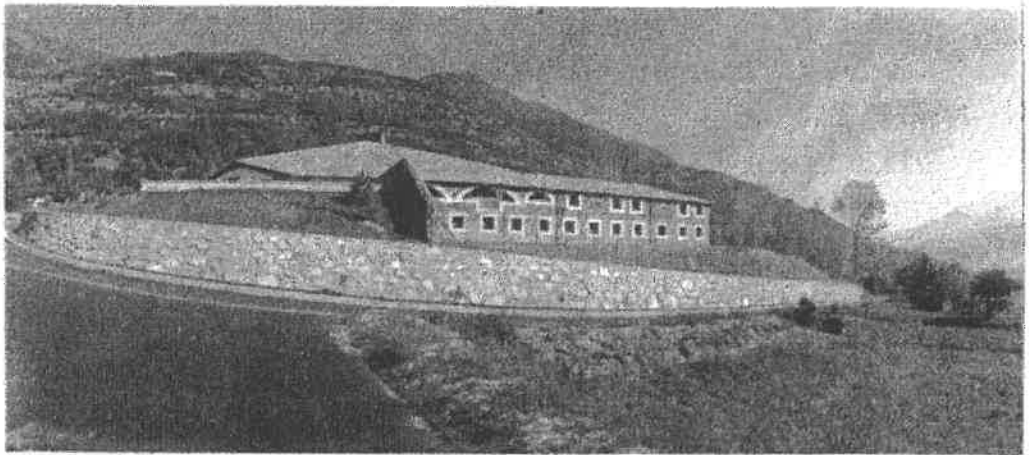
(泰皇カルメル会訳・編)

## 枝の主日の 枝

仕事の一休みにふっと横になったら、向かい側の壁に、“枝の主日”に頂いた棕櫚<sup>しゅうろ</sup>の葉が、もう黄色くなって、十字架の背中にかかげられているのが目に入りました。あれからまだ半年にもなっていないのに、ずいぶんサマ変わりをしてしまったなあ と思いました。もしこれが亡き両親の写真だとしたら、時が経ったとしてもこれ程無関心ではないでしょうに。それが一連の“キリストの受難”について言うなら、今、目前にフッと入るまではまだいいとして、ときにはすぐさま急行列車のようにパッと通過して、特別なことが起こらない限り“心”という駅を素早く通り過ぎてしまうのです。その由来がもし心中に浸透しているならば、“コトの次第”について長々思い出されなくとも、イエスの受難と死の意味が、“駅”に停車することでしょう。●旧約には「第7の月の15日…7日の間、主の祭りを祝いなさい…初日には立派な木の実、ナツメヤシの葉、茂った木の枝、川柳<sup>かわやなぎ</sup>の枝を取ってきてあなた達の神、主のみ前に、7日の間喜び祝いなさい」とあります。それが新約時代に入ると、●「…大勢の群衆は、イエスがエルザレムに来られると聞き、ナツメ椰子の枝を持って迎えに出た、そして叫び続けた。「ホザンナ、主の名によって来られる方に祝福がありますように。イスラエルの王に。」…パレスチナでは、今でもいくつかの土地が「タマル（シュロの意）」と呼ばれています。有名なエリコの町もその昔シュロと呼ばれていました。歴史的に名高いソロモン王は、荒野の中にタマルの町を建てた と言われています。人生には、その時間の中に楽<sup>らく</sup>もあれば苦もあります。陽性的な事柄があると思えば、急転直下、マイナスに転落することもあります。これは神さまが、人間に与えられた“人の生きる道”でしょう。プラスの道は、自然性から言っても心地よいし、人を上機嫌にさせてくれます。でもそれがいいからといって、一生継続したら、その人は我が儘な、利己主義で、他人のことなど微塵も考慮しない、自己中心的な人間になることでしょう。本人はホザンナの歓声の中でだけ生きながらえるわけですから……。しかし人間（人の間）では、これは通用しません。人生はそれだけではない。その後ろに必ず落とし穴がある。つまり栄誉も名誉もすべて剥ぎ取られ、無一物の裸一貫の人間にさせられる。典礼には“枝の主日”の後に“受難と死”があり、それを乗り越したところに“復活”があるのです。ただの象徴ではなく、神が現実<sup>じゆんじつ</sup>にこれを展開して下さったこと。（ですから私達にも当然あること）壁にかかった棕櫚<sup>しゅうろ</sup>の上の十字架上のイエス像を仰ぎながら、改めて神が私たち人間に、マイナスの道がプラスの道になるのだ ということを一生涯かけて 語って下さったのです。この“棕櫚と十字架”の深い意味を、改めて黙想させられた一日でした。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子





*Apr. vietata*

*Carmelo «Madre della Misericordia» - 11020 Quart (Aosta)*

女子カルメル修道院（アオスタ）

## 「挨拶」の不具合について

(その後の話)

石原淳子

テレビで盛んに活躍している「爆笑問題」という漫才のコンビがいます。私は結構お気に入りによく見ているのですが、特にNHKの「爆笑問題のニッポンの教養」という夜遅い番組が面白く、出来得る限り欠かさず見ます。

世にあるさまざまな学問の先端を担う研究者を、「爆笑問題」の二人が訪問して、専門分野の話聞きつつその内容に素人として突っ込んでいき、対話として盛り上がるというのが、いつもの場面設定です。

専門家としての研究者も、素人としての漫才師も、それぞれに真剣に対峙し時に鋭く対立あり、白熱の議論ありで、毎回見応え十分です。

6月2日の放映は「人類よ 声を聴け」と題され、川田順造という文化人類学者の登場でした。ご本人は学問研究の上で、長年アフリカに滞在していたということです。

西アフリカのモシ族という部族の話でしたが、このモシ族は驚くことに文字というものを持っていないということです。彼等の長い歴史の中でコミュニケーションにおいて文字を必要としなかったのだと解説がありました。

その代わり音調言語といって、例えば太鼓を打ち鳴らし、その音調如何をもって一時間ほど王朝年代記を「語る」ことが出来るのだそうです。また、モシ族の人たちの声が、大変に生き生きとしているのが特長ということでした。

もともと文字というものを発明し、皆が等しく使うようになったのは、文化人類学からいうとまだ新しいといえるそうですが、それにしても正に驚く話ではありました。

話は次第に言葉ということにも及んでいき、私が最も興味を惹かれたのは、例えば私たちは外国へ出向く時には、先ずは「こんにちは、さようなら、ありがとう」といった類の言葉を覚えようとするのですが、モシ族には何とこれ等の言葉はないということです。このような全般に通用するような言葉ではなく、その時、その場、その関係、というかけがえのなさに応じた言い方をするのだそうです。言葉とは、或るよそよそしさがないと成立しないのではないかと川田順造氏は云います。

私は思わずテレビににじり寄る思いで耳を傾け、注意を凝らしました。

実は、先に霊性センターニュース227号に、私は「『挨拶』の不具合につ

いて」という一文を載せました。

社会通念というものを決して否定しないけれど、ありがとう、ごめんなさいなどの一般に共通する言葉についての或る不具合を感じていること、我家には深い考えあつてのことではないけれど、家族の間に ありがとう、ごめんなさい、おはよう、といった類の言葉がないこと、そして或る時、幼い孫にコップ一杯の水を請われて差し出したとき、「ありがとう」と言われて突如深い寂しさに落とされたこと等を記し述べたのですが、モシ族の話を聞いて、何か目の前が明るくなったかのように感じられ、（ああ、そうなのか そうなのか そうなのか）と、心から合点がいく思いをもった次第です。

もうずいぶん昔のことになりますが、もはやキリスト者になるしかないのだと決断の時が来て、その意を夫に伝え、何とかして分かってほしいと必死で幾日も幾日も夜を徹して訴え、語り続けました。その時に夫が云ったひと言は私にとって永遠に忘れることのない大切なことばとして魂に刻印されました。

「何を云っているかはよく分からないけれど、僕にはあなたの声が

きこえているから、それで十分だから・・・」

そして、思うとおりに生きるようにと受け入れてくれました。言葉は不十分だけれども、声は十分だったのでしょか。

「人類よ 声を聞け」と題された西アフリカ モシ族の話は、本当に得がたい心開かれる話として貴重でした。

しかし、ここで言い添えたいことがあるのです。

もし、人生でたった一回か二回・・・心の底から万感の思いをこめて云う言葉があるとしたら、（我ながら不可思議ではありますが）それは、きっとありがとう、とか ごめんなさい、とか さようなら、という類の言葉であると思います。

# いのちの言葉 6月

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。(ヨハネ 15・5)

切り落とされたぶどうの木の枝を想像してみてください。もう生き続けることはできず、ぶどうの実もつくことはありません。乾いて、焼かれるのを待つだけです。

キリスト者である私たちが、キリストに結ばれていないなら、どのような霊的死に至るかを考えてみましょう。ドキッとしませんか。私たちは何の実りももたらすことはできません。たとえ朝から晩までがむしゃらに働き、自分は皆の役に立っていると思い、まわりの人から褒められ、財産が増え、大きな犠牲を払うとしても、です。そうしたことは皆、地上の生活では意味があるかもしれませんが、キリストと永遠の命のためには、何の意味もないのです。そして永遠の命こそ、地上の命よりも大切なものです。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

私たちがキリストの内にとどまり、キリストも私たちの内にとどまってくさるには、どうすればいいでしょう。どうすれば私たちも、ぶどうの木にしっかりつながった、生命力あふれる青々とした枝になれるでしょう。

何よりも、キリストを信じることです。でも、それだけでは足りません。私たちの信仰が、生活の具体面にまで及ぶ必要があります。イエスのみ言葉を実践しながら、信仰に従って生きる必要があります。

また、キリストが私たちに残してくださった秘跡という神聖な手段も、大切にする必要があります。それは、たとえばキリストとの一

致が崩れたとしても、再び取り戻すことを可能にしてくれるものです。

そして私たちが、教会の共同体や小教区に積極的に参加するよう努めるなら、キリストは、私たちがご自分の中にしっかり根付いているのを感じてくださるでしょう。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば」とキリストは言われます。

ですから、私たちの彼との一致だけでなく、ご自分の私たちとの一致についても語っておられるわけです。私たちがキリストに結ばれているなら、彼は私たちの内、私たちの心の奥深くにおられます。こうして、相互愛の関係と対話が生まれ、イエスの弟子である私たちと彼との協力が、始まります。

そして、多くの実りがもたらされます。ぶどうの木にしっかりつながっている枝には、おいしいぶどうの実がなるのと同じです。

「豊かに実を結ぶ」とは、使徒職の真の実りが豊かにもたらされること、つまり、他とはまったく異なる革命的なキリストのみ言葉に、多くの人が目を見開くようになることを意味します。私たちは、み言葉に従って生きるための力を、人々にもたらすことができるでしょう。

また「豊かに実を結ぶ」とは、私たちが神からいただいた賜物により、世の様々な必要性にこたえるため、大小の業を生み出す、と

いう意味もあります。

そして「豊かに実を結ぶ」とありますから、実りは「豊か」であり、「わずか」ではないのです。これは、私たちがまわりの人々に、善意や交わり、相互愛をもたらすことも意味するでしょう。

**わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。**

「豊かな実り」は、他の人だけでなく、私たち自身にも、精神的、物質的富がもたらされることを意味します。

個人の内面的成長や成聖の歩みも、私たちがどれほどキリストと一致しているかにかかっているのです。

現代、「成聖」という言葉は、時代錯誤で、どうでもいいこと、単なる理想だと感じられるかもしれませんが。

でも、そうではないのです。この時代もいつかは過ぎ去り、偏りや誤りのある考え方も過ぎ去ります。残るのは、真理です。二千年前、使徒パウロは、神がすべてのキリスト者のために成聖を望んでおられる、とはっきり語っています。教会博士であるアピラの聖テレジアも、どんな人でも最高の観想に至ることができる、と確信していました。また第二バチカン公会議は、神の民全体が成聖に招かれていると語っています。

これらは、信頼に値する声です。

私たちは、成聖という「豊かな実り」も、人生の中で刈り取ることができるでしょう。成聖は、私たちがキリストに結ばれてはじめて、可能になるものです。

**わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。**

み言葉の中で、イエスは直接私たちに「実

り」をもたらすよう求めておられるのではなく、それは、ご自分に「つながっている」ことの結果だと考えておられます。

私たちも、多くのキリスト者が陥りやすい過ちを経験してはいないでしょうか。つまり、他の人の善のためと思って、ひたすら活動主義に走り、自分がキリストに結ばれてすべてをおこなっているかを考える時間もない、という状態に陥ってはいないでしょうか。

これは過ちです。自分は実りをもたらしていると思っていても、それは、キリストが私たちの内で、私たちとともに、生み出される実りではないでしょう。

朽ちることのない神聖な実りをもたらすために、私たちはキリストに結ばれている必要があります。キリストに結ばれていればいるほど、私たちは多くの実りをもたらすことができるのです。

キアラ・ルービック

\* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのち言葉は、1979年2月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ：

03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

心をも身をもたのまず今は唯あるにまかせて世をや送らん

大海原空行く雲をながめつつ一日暮しぬ物思ひして

西田幾多郎 寸心

# カルメル会の企画案内



# 内案画金の会小々小々





# カルメル山の聖母の祭日のお知らせ

7月15日(水) 19:30 前晩の祈りとミサ

7月16日(木) 6:30 10:00 カルメル山の聖母の祭日ミサ



7月19日(日) 10時半 カルメル山の聖母を祝うミサ

スカプラリオ授与式 9時45分・11時45分

カルメル山の聖母の祝日を皆様共にお祝い致しましょう！！

スカプラリオご希望の方は当日お申し出ください

場所：カトリック上野毛教会聖堂

## 上野毛霊性センター '09年7月～'10年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院(黙想) \*\*

## 1. 一泊聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

|   |                 |        |
|---|-----------------|--------|
| ④ | 7月25日～26日       | 新井延和神父 |
| ⑤ | 9月 5日～ 6日       | 未 定    |
| ⑥ | 11月28日～29日      | 松田浩一神父 |
| ⑦ | 2010/ 1月23日～24日 | 未 定    |

※①、② ③終了、尚、(6月号にて)「9月5日・6日分、指導・九里彰神父」、と記載いたしましたが、都合のため指導者変更となります。決定次第また告知致しますので、どうぞご了承下さい。

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

|   |                             |        |
|---|-----------------------------|--------|
| A | 8月10日(月) 夕食～ 8月19日(水) 朝     | 中川博道神父 |
| B | 8月22日(土) 夕食～ 8月31日(月) 朝     | 松田浩一神父 |
| C | 11月 9日(月) 夕食～11月18日(水) 朝    | 松田浩一神父 |
| D | 12月26日(土) 夕食～ '10/1月4日(月) 朝 | 中川博道神父 |

## 3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

|       |        |          |        |
|-------|--------|----------|--------|
|       | 7月 9日  | イエスは祈られた | 中川博道神父 |
|       | 9月10日  | 苦しみの中の祈り | 今泉 健神父 |
|       | 11月26日 | ミサの祈り    | 今泉 健神父 |
| 2010/ | 1月28日  | 主の祈り     | 松田浩一神父 |

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時～16時)

|       |        |           |         |
|-------|--------|-----------|---------|
|       | 10月 9日 | アピラの聖テレジア | 今泉健神父   |
|       | 12月11日 | 十字架の聖ヨハネ  | ベルナルド神父 |
| 2010/ | 2月12日  | 聖エリア      | 中川博道神父  |

## 5. 「社会人のための心の休息」—日常のキリスト教霊性を求めて—

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時)

新しい企画

松田浩一神父

④ 9月11日(金)～12日(土)

⑤ 10月23日(金)～24日(土)

⑥ 11月6日(金)～7日(土)

⑦ 2010/1月29日(金)～30日(土)

⑧ 2月26日(金)～27日(土)

※①, ②, ③ 終了

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

## 6. 青年黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

11月21日(土)～23日(月)

16時受付

## 7. 召命黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

7月4日(土)～5日(日)

15時受付

## 8. 祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

12月24日(木)～25日(金)《講話なし、夕食なし》

## 9. 特別黙想会 伊従信子NDV

10月10日(土)20時～12日(月)16時(10日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ:「さらに固く信じさせてください」

## 10. 待降節黙想会

12月4日(金)20時～6日(日)16時(4日は夕食を済ませてご参加ください)

指導:カルメル会士



幼いマリア像（聖テレジア修道院・黙想）

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの  
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



# 「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

\*どなたでも いつからでもご参加ください\*

## 2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30~12:00》

《19:15~20:45》

|         |         |
|---------|---------|
| 了 6月23日 | 了 6月26日 |
| 7月21日   | 7月24日   |
| 9月8日    | 9月11日   |
| 10月27日  | 10月30日  |
| 11月24日  | 11月27日  |
| 12月15日  | 12月18日  |

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>

## 木曜 黙想会

一般黙想

2009年 3月12日

テーマ：「共に苦しむ神」了

7月 9日

テーマ：「イエスは祈られた」

## 金曜 黙想会

カルメルの聖人

2009年 4月17日

テーマ：「御復活のラウレンシオ」了

2010年 2月12日

テーマ：「聖エリア」

対象：どなたでも

時間：10時～16時

指導：中川博道師

費用：3,500円

場所：聖テレジア修道院（黙想）

お申込みは下記＜聖テレジア修道院（黙想）＞へ お願いいたします

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

# 『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様へ、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

## 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴を行います。
- メソッドの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちにされるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

## 【開催日】

- ① 2009年 4月17日(金)～18日(土)了
- ② 5月 8日(金)～ 9日(土)了
- ③ 6月19日(金)～20日(土)了
- ④ 9月11日(金)～12日(土)
- ⑤ 10月23日(金)～24日(土)
- ⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)
- ⑦ 2010年 1月29日(金)～30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)～27日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 03-5706-7355、 Fax 03-3704-1764  
E-Mail: mokusou@carmel-monastery.jp



## 召命黙想会



テーマ：

「キリストに従った者たち」

日時：7月4日（土）15：00～

7月5日（日）※

担当：中川博道神父・古川神学生

場所：聖テレジア修道院（黙想）

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

※黙想終了時刻は、夕刻予定。詳細はご確認下さい。

申し込み・問合せ先

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

tel 03-3704-2171 fax 03-3704-1764

e-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



## CYC お休みのお知らせ

カルメルユースクラブ（CYC）は、7、8、9月お休みとなり、10月より再開予定です。再開告知につきましては、霊性センターニュース9月号、及び、霊性センターホームページ等で、ご確認下さい。

## センターニュース・8月お休みのお知らせ

霊性センターニュースは、8月号お休み〔7月送付なし〕をいただきます。9月号より再開〔発行予定：8月25日（火）〕致しますので、ご了承下さい。よろしくお願い致します。



# 聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交  
わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、  
福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

- \* 日時：2009年7月25日(土) 18時～26日(日) 16時
- \* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- \* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）
- \* 会費：¥7000
- \* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

(タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります)

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」(奥村一郎著 ¥1050)

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

‘09年7月～ ‘09年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

\*\*宇治聖テレジア修道院 (黙想)\*\*

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

7月 4日 (土) ～ 5日 (日)

九里彰神父

9月 5日 (土) ～ 6日 (日)

新井延和神父

11月14日 (土) ～15日 (日)

渡辺幹夫神父

一日 (午前10時から午後4時)

10月31日 (土)

九里彰神父

12月12日 (土)

新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

7月15日 カルメル山の聖母マリア

九里彰神父

9月23日 十字架の神秘

新井延和神父

10月14日 完徳の道

渡辺幹夫神父

11月 4日 聖なる冒険

Sr.パウリン

12月 9日 暗 夜

九里彰神父

3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月5日 (土) ～6日 (日)

九里彰神父

4. 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日 (水) ～10月1日 (木)

伊従信子師

5. 奉獻生活者のための黙想 (午後5時～午前9時)

8月 2日 (日) ～8月11日 (火)

渡辺幹夫神父

8月18日 (火) ～8月27日 (木)

九里彰神父

10月17日 (土) ～10月26日 (月)

九里彰神父

12月26日 (土) ～1月4日 (月)

新井延和神父

6. 青年のための黙想会・男女 (午前10時～午後5時)

11月8日 (日)

九里彰神父

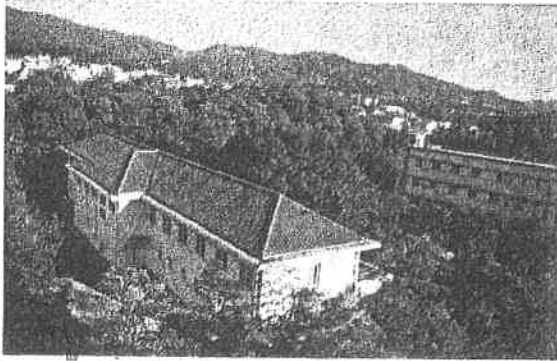


写真  
宇治黙想の家

- ・ JR奈良線or京阪宇治線「六地藏駅」下車、徒歩15分  
ろくじぞう

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

\*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457  
e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

# 「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～(2009)

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:20)とされました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み” などなど一見“ネガティブ”(闇)と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはずで、この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一日静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

|      |           |                           |                     |
|------|-----------|---------------------------|---------------------|
| 第6回  | 6月20日(土)了 | 苦しみの中における喜びと平安 三位一体のエルサベツ | 九里彰神父 (宇治修道院)       |
| 第7回  | 7月11日(土)  | 苦しみの中の祈り                  | 今泉健神父 (上野毛修道院)      |
| 第8回  | 9月21日(月)祝 | 幼いイエスの聖テレーズの悲しみ           | 新井延和神父 (宇治修道院)      |
| 第9回  | 10月17日(土) | アヴィラの聖テレジアの靈性からの自由と希望     | Sr.ベアトリス (宣教カルメル修院) |
| 第10回 | 11月28日(土) | 暗夜に輝く神のみ言葉：患まれた方、聖マリア     | 松田浩一神父 (上野毛修道院)     |

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- \* 定員 約30名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:40～ 講話【1】
  - 12:00～ 昼食
  - 13:00～ 赦しの秘跡または短い面接
  - 13:30～ 講話【2】
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会
  - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

### ☆ 名古屋カルメル靈性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825  
 一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貞船3-2115 小林 厚・晃子 TEL 052-701-3685

## 2009年度名古屋聖書深読会

第1回 了 5月16日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

第2回 10月 3日(土) 日比野カトリック教会 新井延和神父

\* 参加費 ￥1000

\* 持ち物 聖書・ノート・筆記具・昼食等

\* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 原則として、定員は21名とし、申し込みは、1週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

または

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

### 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

#### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

#### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

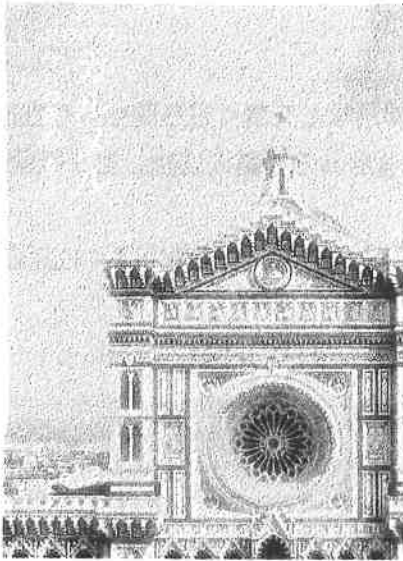
所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# カルメル会出版物のご案内

## 「観想」を読む—



2009  
カルメル  
特集号



特集「聖に内を」  
—現代社会に生かされる新しい神との出会い—

◎聖女ニポルタの聖霊生活  
聖なる人間と神聖に近づいた生活の  
姿(その)について  
—大橋真智—

◎聖エフレイムン・カサ  
聖い霊性の中へ、神のしるしを  
見出す  
—宮田裕夫—

◎聖母マリアの  
聖母マリアの  
聖母マリアの  
聖母マリアの  
—一橋 昌江—

◎わたしたち二千年で  
わたしたち二千年で  
わたしたち二千年で  
わたしたち二千年で  
—中川博道—

◎聖母マリアの  
聖母マリアの  
聖母マリアの  
聖母マリアの  
—フェルディナンド・カヴァーニョ—

### 雑誌「カルメル」NO333 (2009年夏号)「今日の霊性」

- 「馬屋」の霊性 (2) …高橋重幸
- マリアの旅 (4) —外へ出ていく旅、内なる神秘に向かう旅 (2) …中川博道
- 今日の歌 (4) …ペトロ・アロイジオ
- リジューの聖テレーズ 巡礼する旅人 …ユージーン・マッカーフリー
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット (10) 祈りの人 …伊従信子
- 「小さい道」の巡礼者 (5)  
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
- 「貧しいキリストの模倣」 アシジの聖フランシスコの生涯 …九里 彰
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (25)  
聖霊に遣わされて …伊従信子
- 百八十八殉教者の列福に思う …谷口正子
- 愛の断章 (12) …奥村一郎



雑誌「カルメル」 2009年特集号

「闇に光を」 ―現代社会に芽生える新しい神との出会い―

教会二千年の歴史を鑑み

個々の人間と社会に本質と本来指向を啓（ひら）いてきた教会

―大瀬高司

第二ヴァチカン公会議 暑い黒雲の中にも、時のしるしを読み取る

―渡辺幹夫

家庭と若者、  
生活問題の中での神との出会い

―堤 邑江

わたしはこの目であなたの救いを見たからです  
―高齢期を生きる光を探して

―中川博道

日本の教会の新しさ

―チェレスティーノ・カヴァーニャ

**購読のご案内**

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL（03）5706-8356）

**待望の再販**

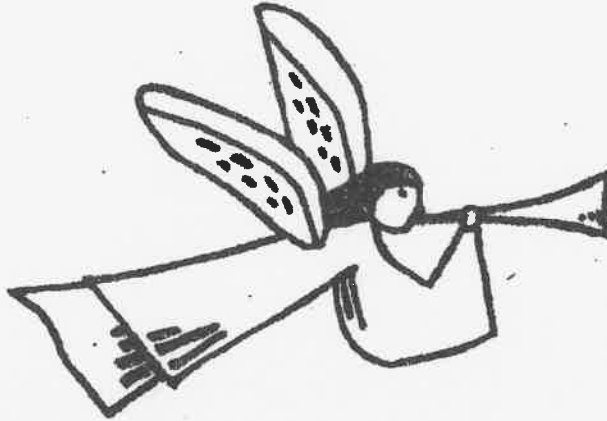
『自叙伝』（サンパウロ社）、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』

（以上3冊、ドン・ボスコ社）



7月16日  
カルメル山の聖母

# 諸所の企画案内



心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

フォコラーレ

マリアの御心会





## 内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072・802・5026

<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

### ★ 2009年度 ★

|   |           |              |      |           |      |              |
|---|-----------|--------------|------|-----------|------|--------------|
| 了 | <b>K3</b> | 09・06・08 (月) | 2時から | 06・14 (日) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |
| 了 | <b>N1</b> | 09・06・24 (水) | 2時から | 06・30 (火) | 2時まで | 滋賀・唐崎・ノートルダム |
|   | <b>F2</b> | 09・07・10 (金) | 2時から | 07・16 (木) | 2時まで | 福岡・御受難会黙想の家  |
|   | <b>Y2</b> | 09・07・22 (水) | 2時から | 07・28 (火) | 2時まで | 神戸・須磨・ヨハネ    |
|   | <b>O1</b> | 09・08・23 (日) | 2時から | 08・29 (土) | 2時まで | 長野・大鹿村・草々庵   |
|   | <b>P3</b> | 09・09・12 (土) | 2時から | 09・18 (金) | 2時まで | 兵庫・売布・女子ご受難会 |
|   | <b>Y3</b> | 09・10・07 (水) | 2時から | 10・13 (火) | 2時まで | 神戸・須磨・ヨハネ    |
|   | <b>K4</b> | 09・10・21 (水) | 2時から | 10・27 (火) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |
|   | <b>N2</b> | 09・11・02 (月) | 2時から | 11・08 (日) | 2時まで | 滋賀・唐崎・ノートルダム |
|   | <b>F3</b> | 09・11・16 (月) | 2時から | 11・22 (日) | 2時まで | 福岡・御受難会黙想の家  |
|   | <b>P4</b> | 09・11・28 (土) | 2時から | 12・04 (金) | 2時まで | 兵庫・売布・女子ご受難会 |
|   | <b>K5</b> | 09・12・09 (水) | 2時から | 12・15 (火) | 2時まで | 東京・小金井・聖霊会   |



# 2009 年度祈りの集いのご案内

## 聖パウロの年

通年のテーマ：

聖パウロについて レクツィオ ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前 10 時～午後 2 時半）



6月 11日 聖パウロの旅 了

7月 9日 キリストの使徒であるパウロ

9月 10日 聖パウロの書簡 1

10月 8日 聖パウロの書簡 2

11月 19日 聖パウロの逮捕（使徒言行録 21：27…）

12月 10日 聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

園田 善昭神父

ダニエレ サルツィ・サルトリ神父

マリア デ・ジョウルジ シスター

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

## ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール どなたでも。  
聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

## ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、  
キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 下記の土曜日 9時30分～11時、また11時15分～12時45分、

岐部ホール4階404、2つの講座・セミナーでキリスト教関係の思想・哲学  
神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、  
プログラム等に関してHP（文末）を見よ。

7月4日、11日、25日、9月5日、19日（後期） 10月3日

## ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分 木曜日 18時～20時30分  
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。祝日を除く。3回座り、間に講話が  
あります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

## ●接心

(秋川神冥窟) 8月 8日(土) 20時30分～15日(土) 7時30分  
一泊2400円程度 10月29日(木) 20時30分～11月3日(火) 13時  
(宝塚市) 7月31日(金) 17時30分～8月6日(木) 13時

## ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂  
どなたでも。(但し、8月全休、休日休)

## ●祈りの集い

下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウス第5会議室  
黙想、講話、ミサがあります。7月11日、8月8日、9月5日、10月10日  
ロザリオの祈り 同日 16時10分～50分 クルトウルハイム1階右小聖堂

## ●黙想

【会社帰りの黙想】 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。(但し祝日、8月11日は休)  
8月25日は、上智大学クルトウルハイム聖堂。  
12月25日(金)はクリスマスの黙想(予定)。

【お昼の黙想】毎月第1・3火曜日 10時40分～11時55分 聖イグナチオ教会  
但し祝日休、8月4日休。8月18日クルトゥルハイム聖堂（上智大学）

【水曜日】 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂、  
どなたでも（但し、8月全休、祝日休）

【通う霊操】 8月22日（土）～30日（日） 18時～20時45分  
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

- 黙想会 9月12日（土）10時～13日（日）15時、  
11月21日（土）10時～23日（月）15時（東村山）
- アガペ会 下記の日、説明会（13時30分）と集い、ミサ（14～18時）。  
上智大学内SJハウス第5会議室、  
10月17日（土）、2010年1月23日（土）
- クリスマス会 12月19日（土）16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時  
岐部ホール（予定）。要申し込み。  
クリスマスのミサ 12月23日（水）14時～ 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

※詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認下さい。



問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授）  
102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス  
電話 03-3238-5124〔直通〕、5111〔伝言〕、FAX 03-3238-5056  
[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/index.html](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html)



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2009年～2010年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

- 7/ 3 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/10 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/17 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/24 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/25 感謝のミサ  
(14時、上智大学内クルトウルハイム聖堂2階)
  
- 7/31 休 み

## リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2009年～2010年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

- 7/ 7 徳の形成—自己受容と善への意志
- 7/21 人間の弱さ—誘惑と罪
- 7/25 感謝のミサ  
(14時、上智大学内クルトウルハイム聖堂2階)
  
- 8/ 4 休 み
- 8/18 魂の癒し—恩寵・回心・ゆるし

### 《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階  
アルペホール

電 話 03-3263-4584

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- 了 ① 08年12月27日(土)～09年1月4日(日)  
了 ② 09年2月20日(金)～2月28日(土)  
③ 7月23日(木)～7月31日(金)  
④ 9月1日(火)～9月9日(水)  
⑤ 10月17日(土)～10月25日(日)  
⑥ 12月27日(日)～10年1月4日(月)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- 了 ⑦ 1月16日(金)～1月18日(日)  
了 ⑧ 2月6日(金)～2月8日(日)  
了 ⑨ 2月20日(金)～2月22日(日)  
了 ⑩ 4月3日(金)～4月5日(日)  
了 ⑪ 4月24日(金)～4月26日(日)  
了 ⑫ 5月8日(金)～5月10日(日)  
了 ⑬ 6月12日(金)～6月14日(日)  
了 ⑭ 6月26日(金)～6月28日(日)  
⑮ 10月2日(金)～10月4日(日)  
⑯ 10月23日(金)～10月25日(日)  
⑰ 11月6日(金)～11月8日(日)

⑱ 12月 4日(金)～12月 6日(日)

⑲ 12月 11日(金)～12月 13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

C. 研修と祈り： 【自己の成長と祈りへの道】

了(20) 5月 19日(火)～ 5月 24日(日)

(21) 9月 29日(火)～ 10月 4日(日)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 講話 黙想

了(22) 5月 27日(水)～6月 3日(水) 九里 彰 師(カルメル会)

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・ブロードニヤック(メノール宣教師) 安井 昌子(ノートルダム教育修道女)  
菊池 陽子(ノートルダム教育修道女) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順15名です。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。  
問い合わせは、電話 または、Eメールを ご利用ください。



食堂より琵琶湖を望む

# いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を  
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、  
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年7月18日(土)

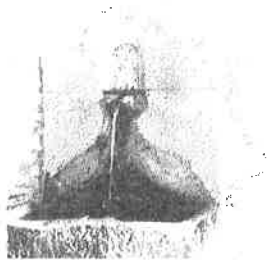
\* 次回は10月から再開の予定です \*

講話 伊従信子

午後2時 ~ 午後5時30分位まで

講話・祈り・分かち合い

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、  
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、  
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

フォコラーレの夏のつどい

# マリアポリ

今年も「マリアポリ」が自然豊かな富士山麓の山中湖畔で行われます。

心身ともにリフレッシュするひとときを 一緒に過ごしませんか？

マリアポリとは：

「マリア様の町」の意味。フォコラーレ発祥の地、北イタリアで1949年に夏の休暇を利用して人々が集い、福音の相互愛を生きる日々を過ごしたのが始まり。今では世界各地で開かれています。「マリアポリ」は、子供から大人まで、どなたにでもご参加いただける集いです。家族的なあたたかな雰囲気の中、講話や体験談、レクリエーションや散策、祈りのひとときもあります。

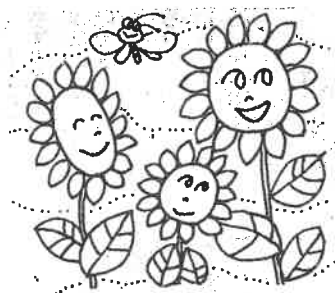
と き：2009年7月18日(土) 13時  
～ 7月20日(月・祝) 昼食後 解散  
(部分参加も可)

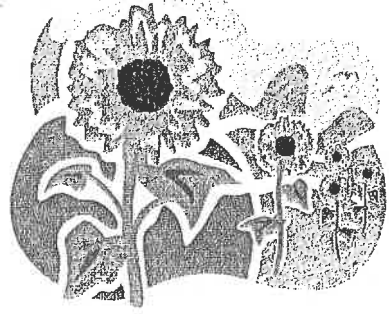
ところ：<sup>とうしょうかん</sup>東照館 (山梨県南都留郡山中湖村平野210)

問い合わせ： フォコラーレ

Tel：03(3707)4018 / 03(5370)6424 Email：[tokyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:tokyofocfem@ybb.ne.jp)

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito/>





真剣に祈りたい方のための

## 夏の高原の黙想会

テーマ 自分の将来を考える  
～イエスのまなざしのもとで～

2009年8月27日（金）午後2時 ～ 30日（日）午後3時

長野県富士見高原「マリアの家」（マリアの御心会黙想の家）

（中央本線「富士見」駅下車 タクシー10分）

指導：英 隆一郎 師（イエズス会司祭）

対象：40歳までの未婚女性で、将来の道について真剣に祈りたい方

参加費：1万円（往復交通費は各自でご負担ください）

定員：10名

申込み・問合せ：お電話でお申し込み後、下の申込用紙を切り取って必要事項を記入し、  
申込金5000円と一緒に現金書留でお送りください。

マリアの御心会 電話03-3351-0297 担当：大原

# 奥村一郎選集（全9巻）

## 刊行完結



### 奥村一郎選集

カルメル修道会司祭である著者の半世紀にわたる著作、講演録をテーマ別に集成。深い信仰と豊かな霊性、そして透徹した知性が織り成す奥村神学の全貌を明らかにする。

#### 慈悲と隣人愛 ●第1巻

解説・西村恵信  
051-0/2,100円

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。

#### \* 多文化に生きる宗教 ●第2巻

解説・橋本裕明  
059-6/2,100円

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。

#### 日本の神学を求めて ●第3巻

解説・小野寺 功  
053-4/2,100円

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。

#### 日本語とキリスト教 ●第4巻

解説・阿部仲麻呂  
055-8/2,100円

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。

#### 現代人と宗教 ●第5巻

解説・鶴岡賀雄  
056-5/2,100円

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。

#### 永遠のいのち ●第6巻

解説・八木誠一  
054-1/2,100円

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。

#### カルメルの霊性 ●第7巻

解説・高園泰子  
052-7/2,100円

カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通して、その霊性の根源に迫る。

#### \* 神に向かう〈祈り〉 ●第8巻

解説・高橋重幸  
057-2/2,100円

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。

#### \* 奉獻の道 ●第9巻

解説・宮本久雄  
058-9/2,100円

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。

四六版・上製・平均240頁

各巻定価 2,100円  
(オリエンズ宗教研究所)

記念御絵



\* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにてサイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764



## 投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

### 》投稿規程《

- \* 締切り：原則的に毎月10まで
- \* 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- \* 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- \* E-mailでの投稿は、添付ファイルで、[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)宛にお願いいたします。
- \* 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- \* 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
  - ④ 連絡先等。
- \* 寄稿連絡は、<sup>くのり</sup>九里 彰神父宛にお願いいたします。住所が変わります！  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院  
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

**YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！**

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

## 『靈性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

### 「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

\* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



### 編集後記

緑が豊かで、広い敷地の宇治修道院は、鳥や小動物が住むにはかっこうの場所となっている。二三年前までは狸の一家が住んでいたようであるが、哀れ、みな車にはねられ、命を落としてしまったそうである。

修道召命の方は閑古鳥が鳴き、修道者の数は減る一方であるが、猫の方の召命は順調である。今春は二匹のメス猫がそれぞれ、4匹と3匹と子供を産み、修道院は「猫屋敷」となりつつある。一人の修道士さんが畑を荒らされると怒って、猫取り器を考案し、捕獲しようとするれば、他の修道士さんは毎日せっせと餌を集めては与えている。男子の方で餌をもらえないと、カルメル宣教修道女会のシスターたちの方へ行き、食べさせてもらっているようである。あまりいじめると化けて出てくるといけないので、修道士との平和共存を祈っている。 (P. 九里)



7月22日  
マグダラのマリア（記念日）

エル・グレコ「悔悟するマグダラのマリア」

## 8月休刊のお知らせ

「靈性センターニュース」は、8月（号）休刊（7月送付無し）となります。  
9月号は、8月下旬発送予定です。どうぞご了承下さい。



## あなたにもできる

「靈性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「9月号」製本日      8月25日（火）      上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。靈性センター係

TEL 03・3704・2171